

NO.100 幸福賞（7票取得）

「感謝の心」



東武医学技術専門学校
小原 桜

私は小学六年生の時、難病指定の病気になりました。原因不明の病気だったのでたくさんの病院をまわり、たくさんの検査を受けました。毎週のように病院に通う日々でした。母は私のためにたくさん病院について調べ、いい病院はないか、と探してくれました。いつも一番に私のことを考えてくれ、精神面でも身体面でも支えてくれました。

六年の歳月を経てようやく病気は完治しました。主治医の先生に「完治したよ」と言われて、私よりも母の方が喜んでいたのを覚えています。

私には弟もいて母子家庭です。少し厳しい状況ですが、母は弱音も吐かずいつも笑顔で私を応援してくれます。そんな母の姿は、本当に強くてかっこいいです。

「病気を持つ身体に産んでごめんね」と謝られた事があります。でも私は、母のもとに生まれてくることができ幸せだと思っています。いつかちゃんと恩返しをしてあげたいです。

～受賞喜びメッセージ～

この度、幸福賞という素晴らしい賞をいただくことができ嬉しく思っております。今春より埼玉で1人暮らしを始めたため、普段はなかなか伝えることができない母への感謝の気持ちをこの手紙を通して伝えることができました。賞をいただいたことを1番に母に伝えると、私と一緒に喜んでくれてちょっとした親孝行をすることができました。これからも今まで以上に親を大切にして、お互いに支え合っていくつもりです。本当にありがとうございました。

NO. 205 感動大賞（4票取得）



南方 NH 翔裕園
竹島 愛葉

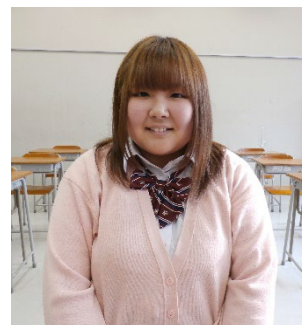
私はお父さんが、お父さんであることを誇りに思っています。
朝食は決まって鮭と目玉焼きと納豆ご飯にお味噌汁。
こだわりの卵焼きが入ったお弁当。仕事をしながらだったにも関わらず、お手伝いをしない私達に文句ひとつ言わなかったよね。
お父さんが作る、ほうれん草のお浸しと魚にあら汁が大好きでした。
お父さんは私が大学受験の時、県内の大学に進学して欲しいと言っていました。でも私が勇気を出して宮城の大学へ行きたいと言った時、快く送り出してくれました。
あの時背中を押されなければ、私はきっと管理栄養士にはなっていなかったし、南三陸町に住むこともなかったでしょう。
こんな素敵な町にめぐり合わせてくれてありがとう。大好きな仲間たちに出会わせてくれてありがとう。
どんな時も味方でいてくれるお父さん。いつも本当に感謝しています。
無鉄砲で我儘な娘ですが、これからもどうぞよろしくね。

～受賞喜びメッセージ～

このような素敵な賞をいただき、とても光栄に思います。これからも父への感謝を忘れず、その感謝の心を利用者様へも還元できるよう、業務に励んでいきます。

NO.185 感動大賞（4票取得）

「親友」



志学会高等学校
木村 架音

私は、幼稚園の時から友達「親友」がいます。
私はその親友に感謝しています。
私は中学二年の頃不登校になりました。
理由は簡単に言うといじめにあったからです。一部の男子、女子からの悪口でした。二学期のはじめ本格的に不登校になりました。
私は家から出ることもなくなり、一瞬、自殺も考えたほどでした。
でも、そんな時一通のメールが届いたのです。
相手は一人の友達からでした。
「大丈夫？」その言葉に涙が溢れました。
理由を話すと、「大変だったね。気づいてあげられなくてゴメンネ」と言ってくれました。「気分転換に出掛けない？」その言葉から、外に出る勇気をもらいました。
それからしょっちゅう遊ぶようになりました。いつも楽しいことを誘ってくれて、自分も陰口など言われているのに私を勇気づけてくれました。辛い時も苦しい時も一緒にいてくれて、感謝しかありません。
中学三年の冬高校受験で進路を決める時私たちは高校が別になってしまいました。親友は全日制へ、私は、週二回の通信制に行くことにしました。高校は違っても出掛けたりしようと約束しました。高校生になってからも、ずっと仲良しです。
私は、こんな親友と出会えて、とてもよかったです。
次は私が勇気を与える番だと思いました。これからもずっと、親友でいられるといいなって思いました。

～受賞喜びメッセージ～

皆様こんにちは。私は志学会高等学校 1年次A組の木村架音です。
この度は、感動大賞に選んでいただきありがとうございました。私は、幸福の手紙を書くにあたって、親友に感謝したいと思い、メッセージを書きました。私は、現在志学会高校に休まずに登校しています。毎日が楽しく充実した生活を送っています。しかし中学生のときは、不登校でした。時間がたつのも遅く、常に悩み苦しむ毎日でした。そんなとき声をかけてくれた友人がいました。他の友人との交流はなくなる中で、その友人とは交流を続け、心の支えになりました。現在高校に通えているのも、その友人のおかげです。

喜びメッセージ動画はこちら

NO.208 感動賞（3票取得）

瀬谷 怜生

お母さん、私をここまで育ててくれてありがとうございます。
私が生まれてからもうすぐ18年が経ちます。
あなたが自慢出来る息子に、私はなれたでしょうか。
私がまだ物心つく前にシングルマザーになり、女手一つで面倒を見てくれました。私は自分勝手にあなたのことを沢山傷つけてばかりでした。
そんな私も少し大人になり、来年から社会人になります。
不安なことばかりで逃げ出したくなることが多いです。ですが、あなたがいつも私のことを一番近くで応援してくれるのおかげで頑張れます。
私には一つ夢があります。それは家族揃って旅行に行く事です。あまり裕福ではなかったため出かけることが少なかったよね。
私が就職して初任給を頂いたら一緒に行きましょう。
私はあなたに沢山の愛情を注いでもらい育ちました。
あなたの息子で幸せです。
これからも私のことを見守っていてください。

～受賞喜びメッセージ～

このような賞をいただき、びっくりしています。
これを励みに4月から頑張ります。

NO. 200 感動賞 (3 票取得)



南方 NH 翔裕園
廣木 けい子

中2から付き合った大好きな人と19歳でさずかり婚をした私。これから幸福な人生が始まる、そう思っていたのに現実には甘くない。社会人1年目、貯金は0円。そんな状態では生活はできるわけもなく、長男なので実家にお世話になった。

世間では嫁姑問題があるけれど我が家は姑どころか大姑、小姑、よりどりみどり。

家族が多い分だけ問題も多くケンカも絶えず波乱万丈の人生が始まってしまった。こんな環境の中で子供を育てて良いものかと悩み離婚も考えたが、それもできずに33年が過ぎた。

子供も4人となり、今年32歳になった長男が結婚した。

結婚式での家族の集合写真を見て思った。やっぱり離婚しなくて良かったと言いたいことを言い合っただけでケンカばかりだったけど、子供がいるからだと言いながらもずっと一緒にいてくれた夫には感謝です。

こんなおばさんになった私から言われても嬉しくないと思うけど、やっぱり大好きな人です。ありがとう。これからも宜しく。

～受賞喜びメッセージ～

この度は感動賞を頂きまして、ありがとうございます。人生には色々な事があり、常に誰かに支えられて生きていけるのだと思います。これからも支えとなっている人達に感謝の心を忘れずに、そして自分も誰かの支えになれるようにいつも笑顔で頑張っていきたいと思っています。

NO.162 感動賞 (3 票取得)

「親の存在」



志学会高等学校
畑中 晴臣

中学生時代、正直親という存在がとても嫌いでした。私のすることすべてにケチをつけてくるような邪魔な人程度にしか思っていませんでした。元々学校をさぼりがちだった私は、将来の夢も決まっておらず、とりあえず適当に高校に行けば良いかくらいに思っていました。

いざ進学先を決めるとなった時、優柔不断な私は2つの高校でとても迷っていました。そんな時、何一つ言う事を聞かずに中学生生活を送ってきた私に真剣に寄り添ってくれて、自分のやりたい事をやれば良いと信じて背中を押してくれました。そして、そのお蔭もあり無事一番行きたかった高校に合格した時、真っ先に親への感謝があふれました。

中学を卒業した日、初めて美容師になりたいという夢の話をしました。正直、美容師は収入も低いし労働時間も長い、辛い仕事です。親に反対される人が多い中、私の親は違います。夢が決まった事をととても喜んでくれて心から応援してくれました。その日、私は初めて親という大事な存在に気づき、自分の感謝の思いをすべて伝えました。中学生や高校生は自分の気持ちを素直に伝えられないと言われていますが、そんな気持ちは一つもありませんでした。そして、その時の思いは今も一つも変わっていません。何かあった時一番に支えてくれるのはいつでも親です。これからもこの存在を忘れてはいけなし、これからは少しずつ今までの恩返しをしていきたいと思います。

～受賞喜びメッセージ～

志学会高等学校2年次生の畑中 晴臣です。今回は「感動賞」という賞をいただき嬉しく思います。普段は素直に伝えることができませんが、これからも母に感謝する心を忘れないでいたいです。

NO. 41 感動賞 (3 票取得)

しあわせ メッセージ
「幸福の手紙」



関東福祉専門学校
葛 偉麗

「いれいちゃん、あなたがこの手紙を読む時には、母はもうこの世には居ません。私はあなたを心から愛しています。私が死んでも、いれいちゃんは自分の幸せを探して楽しい人生を歩んでください。

私とあなたのお父さんは離婚しましたが、やはり私はお父さんを愛していました。いれいちゃんのことをよろしく願います。

いれいちゃん、ダイエットはしなくていいのよ。健康より大切なものはありません。ちゃんと御飯を食べて下さい。いれいちゃん、あなたは母の心に綺麗な娘です。心配しないで。

××月××日母」

「お母さん……」私は涙を流しながら、お母さんと呼んでいました。この手紙はお母さんの遺品を片付けている時、偶然に見つけました。きちんと畳んで、大切なものと一緒に並んでありました。

～受賞喜びメッセージ～

2年連続で「幸福の手紙」の感動賞を受賞して、まず学校の先生たちに“ありがとうございます”と感謝します。私は今、学校で介護福祉士になるために勉強をしています。一生懸命に豊かな福祉社会になるように努力していきたいと思います。